

4月例会開催 第1部「オンラインコミュニケーションの実践による分析と考察」 第2部「これからのコミュニケーションツール」



令和3年4月15日、地域の宝委員会担当による4月例会がリモートにて開催された。冒頭の高塚会長の挨拶では、コロナ警報によりガイドラインに沿って縮小開催となったことについて説明と、参加者への御礼が述べられた。

そして「長(ちょう)」について触れられ、常に考えることの重要性、責任感向上、協調性、達成感について、社長業や会長業を受けた中で感じたこと、やりがいも述べられた。

続いて新入会員の尾関元治会員へのバッジ授与が行われ、自己紹介と今後に向けた抱負が語られた。

次にトリアスロンタイムがあり、第40回全日本トリアスロン皆生大会のボランティア部部長に安達信彦会員、マラソン部部長に住真介会員、AS部部長に足立駿会員が任命され、委嘱状と任命状の授与式が行われた。授与式の後、トリアスロン実行委員長の田中健雄会員より挨拶と、各部部长より40回目の節目の大会に向けた抱負が語られた。



本例会は地域の宝委員会担当の手作り例会ということで、コロナ禍においてコミュニケーションが不十分になりがちな現在、オンラインの重要性とこれからのコミュニケーションツールについて、作成した資料や動画を使用し発表が行われた。

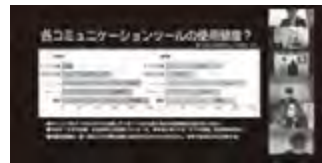
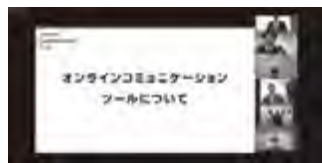
第1部では高岩雄一会員より、事前に会員に行ってもらったオンラインコミュニケーションに関するアンケート結果について発表された。当会の結果と全国的な数値を比較しながら、グラフを使用しわかりやすく解説された。また、地域の宝委員会で企画して行ったzoom居酒屋を振り返り、実際に行われた様子が映し出された。



第2部では景山貴司会員より、人と人のコミュニケーションがどのように進化してきたのか発表された。紀元前50万年前から現在に至るまでのコミュニケーションの歴史について、手作り動画を使いながら、楽しくわかりやすく解説された。続いて高井秀幸会員より、時代に適応したオンラインコミュニケー

ションの在り方と、地域の宝委員会がおすすめるオンラインツールについて発表された。新型コロナウイルスによってこれまでのコミュニケーションの在り方が一変し、オンラインへの需要が高まる未来について、手作り資料に沿って解説された。続いて中西委員長より、中央会の絆やつながりを大切に、未来に向けて進んでいきたいと思いますと熱く語られた。

最後は、高井副会長より総括の言葉で締めくくられた。その時代に合ったコミュニケーション方法を学び、実践していくことが重要であるということ。そして、中央会の絆を深めていくにはコミュニケーションが必要不可欠であるということを再確認する例会となった。



(記事:渡部)

4月例会を終えて

地域の宝委員会 中西悠介 (㈱ LABO 工事部次長)



この度の4月例会は鳥取県西部地方に新型コロナウイルス感染警報が発令された為、リモートでの開催となりました。手作り例会という事もあり臨時委員会を合計3回行い、委員会メンバーの皆と様々な意見を交わし、休日の日に映像の撮影を行うなど例会の内容を企画してきました。

例会内容としましてはオンラインコミュニケーションの実践の分析情報を共有して、映像データを見ながら改めてコミュニケーションの過去から紐解いて未来に繋げていきました。その時、その場面で効果的なコミュニケーションツールの取り方を選択していき使いこなしていく事が大切であり、会員の皆様のコミュニケーションの活性化を考察する内容となったのではないのでしょうか。過去編の映像データ全体的にですが、特にお猿さんの部分での皆様のリアクションはどうなのか?と不安はありましたが、口元が緩んでいる方が何人もいて高井副会長と体をはって良かったなーと思いました(笑)

※休日に終始笑顔で映像撮影にご参加いただいた宇佐見OB、誠にありがとうございました!

この度手作り例会という事もあり委員会メンバー、一人一人の色が出る内容でしたので、縮小開催になった事が非常に残念でもあります。タイトなスケジュールの中、素晴らしい内容を創りあげた委員会メンバーの皆様及びリモートでのご参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました!

第46期ハンサム連載『会社の「当たり前」をやめた!』

『会社の「当たり前」をやめた!』Vol.8

建築+エステの奏でるハーモニー

谷口建築

第二編集部 小原武史(リーダー)、竹谷友成、石田倫章、石井美佳

谷口建築は建物のリフォームをメインに建築工事を行う建築会社です。しかし、新たにエステを始められたとのこと。そこで建築会社でありながら異色のエステを始めた谷口建築に取材に行きました。対応していただいたのは、谷口建築の代表であり当会OB(38期卒会)である谷口弘毅氏、エステティシヤンの西坂明香氏です。後半には、竹谷会員のエステ体験記もあります。



谷口OBと西坂様

スキンケア部門を新設した理由～何故建築業からエステなのか～

まず「新しい客層をつかむ」ということがありました。しかしそれ以上に、私はもともとメンズエステに興味がありました。というのも、私は筋トレも趣味でジムにも通うのですが、身体だけ鍛えて顔が老けることを防ぎたいと思ったからです。ただし、メンズエステをする

してもらえますし、「新しいことに挑戦している谷口建築」というイメージカラーも出せます。

実際エステをする中で、新しい建築の仕事が増えています。

エステの魅力を伝える方法を教えてください。

SNSやホームページに力を入れています。できる限り毎日アップしていますし、検索する際にヒットしやすいような様々な表現を入れています。

エステ部門のこれから

現在はフェイシャルエステを行っていますが、今後エステできる部位を増やしていく予定です。

現在の客層は、男性:女性が大体2:8ですので、より多くの男性の方に来ていただきたい思いがあります。エステを体験された方からは「気持ちよかった」と答えていただいております。

また、これからはコラボの時代なので、様々な異業種の方とコラボして、多くの人にエステを体験してもらいたいと考えています。

この記事を読まれている方に、日々のスキンケアで注意すべきことを教えてください。

洗顔の際には、ごしごし洗わず、人肌程度の温度のお湯で優しく洗ってください。お湯の温度が高すぎると必要な皮脂までも洗い流してしまうため、かえって乾燥してしまいます。



お店があまりなく、あったとしてもハードルが高く、なかなかエステを受けられませんでした。

そうした中で、「自分でエステをやればいい」と気づいたので。

都会ではメンズエステが当たり前になってきていますし、営業マンがエステをしているという話があります。第一印象が違ってくるためです。そのため、山陰でもメンズエステは「5年先10年先に必ず当たり前になる」との思いもあり、競争相手が少ない今のうちにやっておこうと思いました。

そこで従業員の西坂にエステティシヤンの資格を取ってもらい、令和2年2月ころからエステ部門を開業しました。

実際やってみて、私自身が大変楽しんでいますが、楽しむことが大事だと思います。

エステ部門との相乗効果

谷口建築を知ってもらう機会が増えたことを実感しています。周りから注目も

エステ感想

フェイシャルエステを受けるのは、30代で受けて以来。(記事:竹谷会員)



熱すぎない適度な湯でやさしく泡洗顔し、タオルでこすらず水分をふき取り、化粧水や乳液で保湿……などと、毎日丁寧にやるわけもない元野球少年だった45歳が受けてみると……

まずは泡洗顔をやった後、蒸気をあてての角質取り。イメージはパックのようなものを張り付け、乾いてからはがす感じだったが、液体状のクリーナー使用で、はが取る感じはなし。それだけで、顔がキレイになった感じ(無論、別人に変わったわけではない(笑))

リラックスした状態で、その後マッサージや保湿をして終了。リラックス効果と、エステの効果で、実年齢くらいに見えるといいなぁ(笑)



Before ▶ After

【取材を終えて】

谷口氏も西坂氏も取材中常に笑顔で、「好きなことを仕事にする」を体現されていました。「好きなことを仕事にする」。これが一番仕事をする上で大事なことだと思いますし、当たり前をやめるうえでも大事な視点だと感じました。しかも、谷口建築は現状に満足しておらず、まだまだ邁進中です。

お二人の様子を見て、私も現状に満足せず、新たなことに挑戦していかなければならないと感じました。同時に日々のスキンケアも大事にしていこうと思いました。



トライアスロン部長挨拶



安達 信彦
株平設計設計課長

この度、ボランティア部長を拝命させて頂きました安達です。宜しくお願ひ致します。40回大会という節目となる大会での部長拝命です。精一杯活動していきたいと思ひます。

昨年はコロナ禍での感染拡大防止の観点から今年度へと延期となり、開催時期も8月末と大きく変更となりました。依然としてコロナウイルス感染拡大防止への対応が必須となり、参加して頂くボランティアの皆さまをサポートするボランティア部には、これまでとは異なる大きな変化を迎える事となります。例年ご参加頂いたボランティアの方々の中には、職業上や健康面など様々な制約の中でご参加が難しい方も多くいらっしゃいます。ボランティア参加数の減少が見込まれますが、今大会だけでなく41回以降の大会開催を見据え、細かな気配りやコミュニケーションが求められます。大変な面は増えますが、達成出来た際のやりがいは例年以上となります。

昨年の大会延期により、ボランティア部の活動を未経験の方も多くいらっしゃいますが、ボランティア部の皆さまだけでなく、青年中央会の横の繋がりを活かし、当会継続事業として会員一丸でフォローして頂ければと思ひますので、宜しくお願ひ致します。



住 真介
住法律事務所

第40回全日本トライアスロン皆生大会のマラソン部長を拝命致しました住です。マラソン部部長として、その職を全うすべく力を尽くしたいと思ひます。

さて、トライアスロン皆生大会はこの度40回という節目を迎える記念の回ですが、現在新型コロナウイルスの感染状況から、コース縮小等開催方法の見直しが必要となっております。その中でマラソン部も、今年は必要最小限の人数での活動となります。しかしながら、マラソン部の「やるときはやる。楽しむときは楽しむ」との伝統のもと、メリハリをつけて活動したいと考えています。

また、マラソン部活動の一環として、部員以外の会員の皆様にもご協力をいただくこともあるかと思ひますが、その際にはお力添えをいただければと思ひます。会として例年とは異なる取り組み方となると思ひますが、オール中央会で団結してトライアスロンを盛り上げましょう！



足立駿
侑足立ふとん店
米子店 店長

本年8月29日(日)、第40回全日本トライアスロン皆生大会が開催されます。コロナ禍における大規模スポーツイベントにおいてボランティアが安全に参加できる体制がより一層求められるなど、我々を取り巻く環境は大きく変化しています。この様な中、我々はその先の次年度以降においても、会員皆様の参加意欲を向上させる義務があり、また、このことを次の若い世代へと繋げていくよう努力していく必要があります。

こうした使命を各部長と共有するため、8月の大会開催に向けて鋭意準備を進めておりますが、ご承知のとおり鳥取県をはじめ全国的に新型コロナウイルス感染症の患者数が拡大し、大会が予定通り開催されるか心配されている方も多数おられるものと思ひます。AS部ではボランティア参加者同士のソーシャルディスタンスを確保、フェイスシールド及び手袋を着用しての運営など創意工夫を図るとともに、様々な感染防止対策を講じながら、皆様が安心してご参加いただけるよう、現在も開催に向けて全力で取り組んでおりますのでご理解の程よろしくお願ひいたします。

コロナウイルス感染症の1日も早い終息を願ひ、予定通り大会が開催されることを信じ、第40回全日本トライアスロン皆生大会が大成功で終わられるよう「ALL中央会」で頑張りましょう！

T.S.Cへの情熱 ~卒会者より~



竹谷友成(米子鉄工サービス有限会社 営業部長)

32期に入会させていただいて、いよいよ15期目の卒会年度になりました。

当時は、今と違い凄いアルハラ全盛期(笑)で喫煙率も高く、正直「価値観の全く違うエライトコに來たな」と思ったのですが、同時に「飲まんてええけんとかかく出るだで」「暇があったら会員手帳を見いだで」等先輩方のたくさんのアドバイスに従い、わからないなりに会に参加し続けていたのが懐かしいです(笑)。そうして通常の委員会・例会やその後の懇親会や二次会だけでなく、このハンサム制作の担当等、会での役割、トライアスロンのボランティアその他事業に通じり参加した事で、本当に沢山の経験と多くの出会いを得させてもらいました。

そんな自分が後輩の皆さんに言えるのは、中央会というのは、年を取ってからも有効な「楽しい山陰暮らしを楽しむ便利なスキル」のようなモノだよ、といったところでしょうか。なぜスキルか?と言えば、会にしっかり参加してまず自分を知ってもらい、また他の現役・OB会員を知るのが前提。そうやって会に関わる“ヒト”を知り、それぞれの関係や歴史を知りつつ、その場その場での役割を最低5年くらいは果たして信頼関係を築く事で習得できるからスキルなのです。

世の中、大災害やコロナ禍のような不条理もありますが、それでも中央会という多種多様な価値観が入り乱れる場での、最低5年くらいの経験は、そんな不条理等を乗り越える一助になるでしょう。新入会員やこれから入られる方には、会への参加でいろいろ経験してもらい、仲間を増やしつつ、得た“スキル”を将来にわたって公私ともに活かして欲しいと思ひます。

長くなりましたが、中央会の歴史の1/3にあたる約15年の間、会員として活動させていただけたことに感謝します。会を通じて関わって下さった全ての皆様、本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願い致します。

石井美佳会員出産奮闘記

(担当 小原)



先日、石井美佳会員が第2子をご出産されたとのことで、4月16日にお祝いを行いました。お祝いの場所は石井会員のご自宅。快く申し出を受け入れていただきました。

高塚会長、恵比木副会長にも来ていただき、お祝いしていただきました。

本当は当委員会みなでお祝いをしたかったのですが、米子市にコロナ警報が出ていたため、当委員会からは柏木委員長、谷村副委員長を含む少数精鋭の4名で執り行わせていただきました。

高塚会長からは「この度はおめでとうございます。お身体にお気をつけください。会の復帰も楽しみにしております。」とお祝いのコメントをいただきました。当委員会からはお祝いの品として鯛と境港サーモンをお渡し、また、応援団に扮した当委員会の小原会員からの熱いお祝いコメントもありました。

石井会員からは、「この度はお祝いしていただきありがとうございます。仕事もしばらく休みますが、またパワーアップして帰ってきますので、皆さんまたよろしく願います」とコメントをいただきました。

石井会員、改めてご出産おめでとうございます！石井会員並びにご家族のご健康ご多幸をお祈り申し上げます。



会長連載

勇気ある一歩

～クールヘッド・ホットハート～

第46期 会長 高塚 康治

妻のススメもあり、三カ月に一度の頻度で出雲のマダムにお話を伺っています。別に怪しいアレでもないですし占いを信じるたちでもございませぬ。でも行くと必ず前向きになれたり気持ちがラクになったりするのでもう1年以上通っているんですね。そんなマダムが私にその時々のパワースポットを教えてくれるのですが、先月教えてくれたその場所に驚きを隠せませんでした。マダムは私に言いました。「うーん、何か見える。ちょっと待ってね。・・・あ、見えた。大山寺に行ったらいいみたいだよ」と。おいおいおい、いったい何が見えたというんだ。そしてなんとその場所が大山寺って。第6回大山お地蔵さまフェスティバル、無事に開催されますように。

第6回大山お地蔵さまフェスティバル



安達 信彦
棟平設計 設計課長

「無病息災を祈る」をテーマに開催する第6回大山お地蔵さまフェスティバルも5月16日(日)当日まで、いよいよ間近に迫ってきました。継続事業として、これまでの5回の開催を積み上げてきた実績を元に、より良く改善できるように会員の皆さまからご意見を頂き、準備を進めてきました。

今回は昨年9月には実行委員会が立ち上がり、これまでより早い時期から始動しました。広報・制作展示部、清掃・大山そば部、にぎわい・集客部、にぎわい・ステージ部の4部が部長を中心に活動し、事業目的である「子ども達の心の成長と地域を愛するきっかけづくり」を実現する為、多くの企画を練って頂きました。その中で、「にこっとさまダンス」の製作や地蔵団子の販売など新たな試みも出てきました。

まだまだコロナ禍の状況次第で、当初に思い描いた通りに実現できるかわかりません。それでも、私たちの日々の暮らしを見守ってくれる「大山さん」のご加護を信じ、子どもたちの笑顔で大山参道が満たされるように、しっかりと準備を進めていきます。当日は沢山の方々にご参加頂けるように、大山でお待ちしております。

新入会員

(継続実行委員会)



お ぎ き も と は る
尾 関 元 治 B型

大樹生命保険株式会社 営業部長
生命保険業・損害保険業の各種取扱
〒683-0802 米子市東福原1-1-22 米子ウエストビル1F
TEL:0859-34-2518 FAX0859-23-0484

R03.03(R02年度)入会
(推薦者)安達(信)
小谷(泰)

〈コメント〉大樹生命保険株式会社の尾関元治と申します。活動を通して、会員の皆様と交流を図り、一社会人として、一企業人として様々な視野を広げていきたいと考えております。皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

5月役員会報告

令和3年5月6日(木)米子市公会堂 集会室2・3にて5月役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- ・4月例会開催の件
- ・鳥取県中小企業青年中央会の件
- ・第6回お地蔵さまフェスティバルの件
- ・鳥取県中小企業青年中央会次年度選考委員指名の審議
- ・6月例会開催の協議

※なお、詳細については各委員長までご確認ください。

編集後記

10年間で6回広報系(笑)だったのが、卒会年度に一回増えて延べ15期で7回目のハンサム担当委員会。取材や原稿集めに「編集会議だ」「校正だ」と、我ながらよくやったものだ(笑)。会の広報に関し、HPやSNSに比べると速報性や情報量・発信頻度では落ちるものの、現役・OB会員や関係諸団体や近隣自治体の首長にも届くというハンサム。各団体が会員拡大に苦勞する昨今、中央会の宣伝・知名度UPが重要なのは、対外的な行事の開催前だけではない。会勢維持・拡大に向け、恒常的に宣伝し続ける為にも、ハンサムをHPやSNSと併用して用いる姿勢がより重要になってきたように思う。そんな「会の存続にも関わる広報の重要性」を会員、特に三役以上にはしっかり理解した上で買って貰う必要性が生じたと思うので、この際、この先三役になる会員には「広報系委員会(等)を経験している事」を承認条件に入れてみてはどうだろうか？という事で通常の100字くらいという「当たり前」を変えて、数年振りにして中央会生活最後の編集後記は少し長いモノにしてみました(笑)

(竹谷@中央会生活最後の編集後記)